

【 会員投稿 】

「計画停電とホームページ」・・・情報弱者にならないために 篠崎 辰夫

最初はさっぱり訳がわからなかった。十分な事前予告のないまま唐突に実施された「計画停電」。震災によるやむを得ないこととはいえ、東電ともあろう大企業が、あまりにお粗末な対応だった。何グループなのか、いつやるのか、やるのかやらないのか、先々どうなるのか・・・説明もさっぱり要領を得ない。グループ別計画を表やカレンダーにして示せばわかりやすいのに、口頭の説明ばかりで痒いところになかなか届かない。加えてマスコミ記者の的外れな質問が混乱に一層拍車をかけた。テレビの報道も表面的で物足りない。しつこい「AC」のコマーシャルばかりが印象に残った。

なにより困ったのは、計画されていても実際にやるかどうかは前日又は直前までわからないこと。東電に言わせると、電力の需給のバランスと見通しをぎりぎりまで見て、出来るだけ停電しないように配慮するためという。その配慮が混乱の元にもなっている。「無計画停電」なんて言われた。

幸いその後節電が進んで、3月14日から始まった計画停電は4月8日で事実上終了した。この間停電が実施されたのは、我々のグループでは3回。近くで1回も実施されなかった所もある。あれだけ騒いでなんだったのか・・・。人々はみんな過剰反応して自衛策に走った。スーパーには長い行列が出来、売り場の棚から米やパン、カップ麺、トイレットペーパーなどが消えていった。交通機関は乱れ、企業や商店も大打撃を受けた。停電そのものは少なかったが、その代償はあまりにも大きかった。計画停電はなくなったが、これから夏場には、大規模な電力使用制限が待っている。

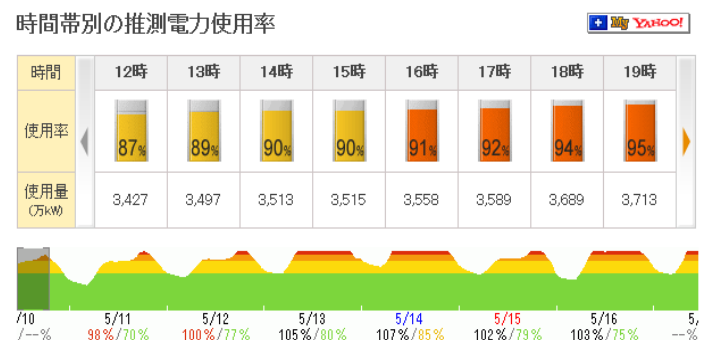
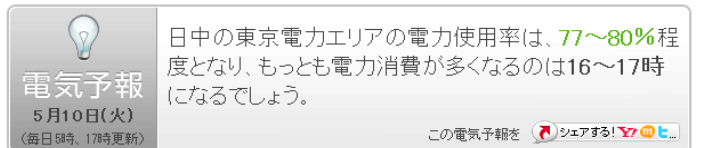
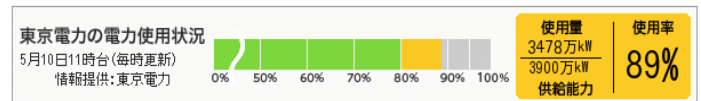
ところで、今回の計画停電では、インターネットのホームページが大変役に立った。言うまでもなくホームページは情報の宝庫。わからないことは何でも教えてくれる。東電のホームページも当初より大分充実してわかり易くなってきた。電力使用量と供給能力、前年比較などがグラフで1時間毎に刻々と表示され、さらにいつ電力使用がピークを迎えるかの「電気予報」も始まった。(下図参照)

このようにホームページはテレビ、新聞などの情報を補い、痒いところにどこまでも導いてくれる。しかもネット環境さえあればすべて無料。ただホームページを利用するには、パソコンにインターネットをつないでそれなりの操作をしなければならない。お年寄りなどにはまだまだ敷居が高い。

この計画停電が始まった時、市の放送による告知があった。要領を得ない説明のあと、「詳しくは市または東京電力のホームページをご覧ください・・・」。誰もがネットを利用しホームページを見ている前提の放送内容。ネットを利用していない人やわからない人はどうするのか。隣近所はお年寄りが多く、ネットなんかわからない人ばかり。みんな怒っていた。しかし怒ってばかりはいられない。世の中はどんどん進んでいる。

図らずも、ホームページの果たす役割が大きくなる一方で、ネットを利用しない人が情報弱者となっている現実を目の当たりにした。今やホームページでの情報伝達は当たり前、ネットを利用しないと情報弱者となって置いてきぼりにされてしまう、そんな時代になってきているような気がする。もう「インターネットはやってない、わからない、面倒だ」・・・なんて言っていられない。そのうちややこしいことはみんな、「詳しいことはホームページをご覧ください」・・・で済まされてしまうだろう。

という訳で、今回の「計画停電」から「ホームページ」の果たす役割りと重要性を改めて実感した次第。「情報の質と量だけ若返る」とも言われている。ホームページを活用しよう。情報弱者にならないために。



<中学校の数学> 中学1年の方程式の応用問題 (方程式をたてて答えなさい)

・ある数と5との和の3倍は、もとの数の7倍から1を引いたものに等しい。もとの数を求めよ。

● 今月の『細野水彩画廊』: 「イギリス・虹の湖水地方」 (菱の実会ホームページをご覧ください)